

## 農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

## 1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は12.1%（平成23.1%）、発生箱率は0.17%（平成0.42%）であり、いずれも平成より低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗4サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が2点、苗立枯細菌病が2点であった。

## 2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は39.4%（平成31.8%）であり、平成よりやや高く、発生箱率は0.05%（平成0.24%）であり、平成より低かった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）、トリコデルマ属菌であった。

## 3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認され、発生箱率は1.53%（平成0.44%）であり、平成より高かった（表1）。一部発生程度の高い施設があった。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月11日） 単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 ( 3 )	0 ( 1 )	1 ( 2 )	3 ( 3 )	
県中部	16 ( 16 )	4 ( 4 )	7 ( 7 )	14 ( 15 )	
県南部	11 ( 12 )	0 ( 0 )	3 ( 5 )	10 ( 10 )	
遠野・沿岸部	3 ( 4 )	0 ( 1 )	2 ( 1 )	4 ( 4 )	
合計	33 ( 34 )	4 ( 6 )	13 ( 15 )	32 ( 32 )	
発生施設率 (%)	R3	—	12.1 (17.6)	39.4 (44.1)	97.0 (94.1)
	平成	—	23.1	31.8	89.6
発生箱率 (%)	R3	—	0.17(0.11)	0.05(0.07)	1.53 (0.16)
	平成	—	0.42	0.24	0.44

※ ( ) は令和2年の調査結果

※平成値：H23-R2 10ヶ年

※細菌病類はもみ枯細菌病、苗立枯細菌病

#### 4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月18日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は4.0%（平年5.0%）であり、平年並であった（図1）。

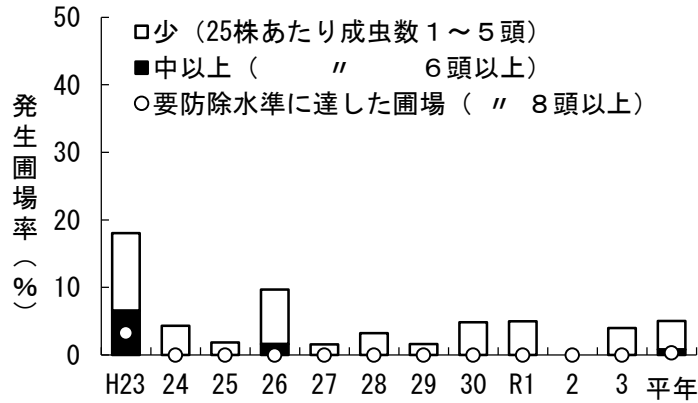


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

#### 5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、1圃場で成虫の侵入が確認された。

#### 6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は16.0%（平年18.7%）であり、平年並であった（図2）。

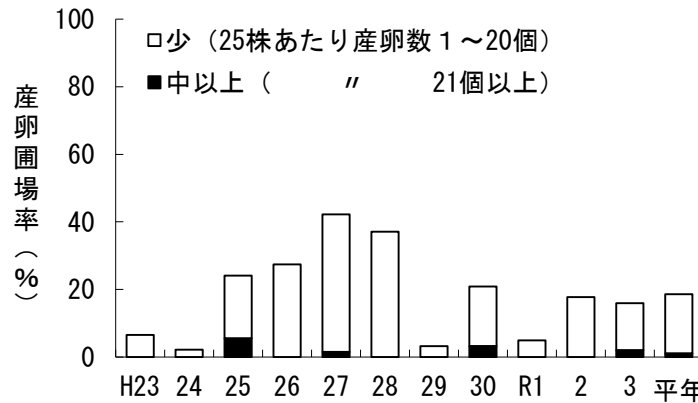


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移 (5月下旬)

#### 7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第3半旬に越冬世代幼虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
4/30	0	0	0
5/6	0	0	0
5/11	0	0	4
5/18	0	2	5
5/24	0	3	1